私たちの活動や会員の意見を茨城県平和委員会のなかまたちに伝えます

土浦平和の会

ニュースＮｏ．１８５　２００７年 ８月

発行　土浦平和の会

事務局　土浦市神立町２６６４－２
ＴＥＬ　８３１－９１２２
http://www.geocities.jp/ino011_jp/

被爆６２年原爆と人間展に２，３５１人が入場

今年も８月３日から９日までの１週間、県南生涯学習センターギャラリーにおいて“原爆と人間展”が開かれました。入場者は昨年の１，４００人を大きく上回って２，３５１人でした。

広島平和資料館から借りた原爆資料パネル約７０枚がギャラリーいっぱいに展示されて、入場者の足を釘付けにしました。受付ではヒロシマに送る折鶴を折って行く人、核兵器廃絶署名、憲法九条を守る署名をしていく人も数多く見かけられました。

ピースデーにも１３０人以上の入場者

大西陽子さんの朗読

原爆と人間展の中の日曜日（５日）におこなわれたピースデーは午前中映画「ゴジラ」、午後「長崎の鐘」が上映されたこともあって入場者はのべ１３０人以上となりました。

例年どおり土浦市が広島の平和祈念式典に派遣した８人の平和使節団の報告や岩井市の被爆者茂呂さんの体験談、朗読の会の大西陽子さんの「この子たちの夏」からヒロシマの詩の朗読がありました。今年の会は中学生など若い参加者が多かったことは平和を語り伝えるという意味で大きな収穫があったと思いました。

２００７年平和のつどい

助川弘之前市長を実行委員長として市内の民主的市民団体協力のもとにおこなわれる平和のつどいが、今年も８月１５日終戦の日市民会館で「蟻の兵隊」上映会をおこないました。終戦後の中国に残留し内戦を戦わされた兵士たちが、帰国後戦後補償を求めて裁判闘争を始めるが、“逃亡兵”扱いにされてしまう。司令官の無責任な戦犯のがれの密約の証拠を探っていくドキュメント映画。

中国で明らかな事実が日本の歴史の中で証明されない戦後処理の隘路をどうしたらよいのか・・・

平和の会ニュース、平和かわら版（ＰＤＦ版）配信しています
平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください　ＦＡＸは 029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はｅＭａｉｌアドレスご連絡ください

私たちの活動や会員の意見を茨城県平和委員会のなかまたちに伝えます

私の見た原爆

１９４５年８月６日　私は加計町（現在は安芸太田町）に疎開していました。この町は広島から太田川をさかのぼった山間の町であり、ヒロシマから直線距離で２５キロのところにあります。私が国民学校四年の時でした。
この日の朝、国民学校の高学年は勤労奉仕で、８時には学校の校庭に集まって朝礼を行なっていました。ラジオ体操をしている最中にピカッと稲妻が光りました。雲ひとつ無い紺碧の空に突然の稲妻だったので、一瞬何事かと動きを止めたように思いますがそれきり何事も起こらなかったので体操を続けました。しばらく後にドーンという爆発音が聞こえました。音速は３４１メートルですから１分余りしか経っていなかったはずです。体操が終わってからみんなが何事だろうと話していましたが、爆発音から何分経ってからでしょうか、山の向こうに入道雲のような原子雲がもくもくと頭をもたげてきました。みんなは「川下の発電所が爆発したのかも知れない」などと話し合いました。先生の指示でそれぞれ近くの農家の田んぼや畑の草取りなどの手伝いでに出かけることになりました。この援農作業も１時間余くらいで終了して、それぞれ自宅に帰りましたが、間もなく急に雨が降り始めました。このころ軍事機密で天気予報はありませんが、雨が降るような天気ではありません。原子雲が降らせた放射能雨です。研究者による聞き取り調査では放射能雨の降った範囲はヒロシマから北西に２０数キロ、ちょうど加計町が北限だったようです。ヒロシマから５キロか１０キロくらいまでは黒い雨で、これを浴びた人たちは急に下痢をして発熱の後に原爆症を引き起こします。私の見た雨は黒い雨ではありませんが、放射能を含んだ雨です。

昼過ぎ頃在郷軍人という召集を受けなかった年配の人たちがトラックに分乗して救援のためヒロシマに向かいました。この人たちの多くは残留放射能を被ったり、吸い込んで２次被害にあってしまいました。３時過ぎになってからだと思いますが、空からひらひらと蝶のように舞い降りるものがありました。百円札を拾った人がいました。原子雲に乗って振ってきた降下物です。　その後、私の近所にもやけどして包帯を巻いたひとが避難してきたり、何日かたって髪の毛が抜けた人がいました。やけどの跡に蝿がたかるので、１日中蚊帳をつって寝ていました。近寄らないように言われました。１ヶ月くらいで亡くなった人が何人もいました。髪の毛が抜けた人も１年くらいで亡くなったと聞いています。大学生だった従兄弟は何処で亡くなったのかも分からないで骨も拾うことも出来ませんでした。私が思い出せるのはこんなことです。

ヒロシマは新型爆弾で全滅したと伝えられましたが、原子爆弾の熱線は爆心地の１キロ範囲を一瞬にして炎上させ屋根瓦も溶かしてしまいました。そこは空高く火柱となって原子雲を舞い上がらせました。さらに爆風（衝撃波）は半径２キロ範囲をなぎ倒し炎上させました。１．５キロで被爆した人の証言によると道路の反対側に飛ばされて家に逃げ帰る途中で顔も手足も真っ赤にはれ上がっていることを知った。皮膚はベロンと剥けて目も開かなくなったと言っています。その当時は被害の実相、熱線に続く衝撃波、残留放射能、黒い雨、放射性降下物という広範な影響について語ることも書くことも制限されていた上、被爆者たちも語りたがらなかったのですが、いま徐々に語られ始めています。

井上仁志

活動ごよみ

８・３～９　原爆と人間展 （県南生涯学習センターギャラリー）	８・１５　２００７年平和の集い （土浦市民会館　「蟻の兵隊」）
８・　５　ピースデー（「ｺﾞｼﾞﾗ」「長崎の鐘」）	８・２１　平和の会理事会（コープ土浦）

平和の会ニュース、平和かわら版（ＰＤＦ版）配信しています
平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください　ＦＡＸは 029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はｅＭａｉｌアドレスご連絡ください